

授業科目等の概要

3・4年生

(医療専門課程作業療法学科夜間部)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			教育学	教育及び学習について幅広い視野を持つとともに、人間の成長及び発達における教育の意義を捉えなおす。対象者に対する教育的役割を果たすために、教育の基礎となる知識及び技術を養うとともに、専門職として生涯にわたって継続学習する意欲や能力の基礎を培う。	3・前	30	2	○			○		○		
○			社会福祉学	社会福祉の基礎知識の習得をねらいとし、社会福祉制度の成立過程及び近年の社会状況の変化を理解し、それらがどのように社会福祉の法律、制度及び利用者の捉え方に影響を及ぼしているのかという点を理解する。	3・後	30	2	○			○			○	
○			小児科学	小児に対する作業療法の現場で遭遇する諸問題、小児の成長・発達・生理・疾病に関連する課題及び様々な原因により発現する発達遅滞の諸問題について深く理解する。また、小児特有の先天性・遺伝性疾患に関する遺伝の法則等についても学習する。	3・後	30	2	○			○			○	
○			公衆衛生学	臨床医学の主な対象が患者であるのに対し、公衆衛生の対象は普通に生活している人々である。この人々の生活環境をより良いものとし、一層健康な状態とするにはどうすれば良いのかを、個人的または社会的方策について深く理解する。	3・後	30	2	○			○				○
○			作業治療学演習	身体障害で使用する評価法について、評価技法を深く理解する。具体的には、片麻痺回復検査及び高次脳障害に対するスクリーニングテストを中心に、評価技法を習得する。	3・前	30	2		○		○			○	
○			作業治療学Ⅰ	身体障害の作業療法について、評価法の基礎知識及び障害と関連する各評価技法、記録法及び解釈等を深く理解する。	3・前	30	2	○			○			○	
○			作業治療学Ⅲ	発達障害及び運動障害に関する基礎知識、評価法及び治療方法について学習する。また、脳性麻痺及び運動障害の疾患児に対する作業療法の評価法について深く理解する。	3・前	30	2	○			○			○	
○			作業治療学Ⅳ	高齢者の心身の特徴及び高齢者によく見られる疾患や障害を理解し、老年期障害に対する評価法及び治療計画の立案方法について学習する。	3・後	30	2	○			○			○	
○			作業治療学Ⅴ	高次脳機能障害に対する作業療法の概要、特徴の理解、評価方法及び介入の原則を学習する。また、高次脳機能障害の作業療法を実施するにあたり、他部門との係わり方についても理解する。	4・前	30	2	○			○			○	
○			作業治療学実習Ⅰ	脳血管障害、脊髄損傷及び関節リウマチ等の身体障害作業療法について学習する。また、リハビリテーション医学としての位置付けで各疾患を理解し、作業療法の評価と治療の実際を理解する。	3・後	30	1			○	○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			作業治療学実習Ⅱ	精神障害の各疾患及び障害特性自体を学ぶのではなく、それぞれに対し作業療法を行ううえで考慮する事項等を事例紹介しながら学習する。また、事例紹介の仕方及びまとめ方も理解する。	3・前	30	1			○	○		○		
○			作業治療学実習Ⅲ	精神遅滞、広汎性発達障害及び軽度発達障害等の発達障害並びに知的障害分野に関する基礎知識、評価法及び治療方法を理解するとともに、治療への道すじを学習する。	3・前	30	1			○	○		○		
○			作業治療学実習Ⅳ	加齢による老年期特有の変化(身体的・精神的)を理解するとともに、高齢社会について学習する。また、疾患別に応じて評価方法及び治療方法を理解する。	3・後	30	1			○	○		○		
○			作業治療学実習Ⅴ	高次脳機能障害の特徴を理解し、作業療法の概要、評価方法及び介入の原則について学習する。また、実習を通じて高次脳機能障害の治療について、具体性を高める。	4・前	30	1			○	○		○		
○			作業療法技術Ⅰ	義肢装具学の基礎を理解し、国家試験問題に対応できる知識を身に付ける。また、義手と上肢装具に重点をおいて学習し、作業療法士として臨床現場で必要な技能についても深く理解する。	3・後	60	2			○	○			○	
○			地域作業療法学	医療現場と違い地域のリハビリで求められていることについて学習する。また、課題や問題点も取り上げ、現状の社会制度や資源を活用しながら、症例を通して作業療法の係わりについて理解する。	3・後	30	2		○		○		○		
○			地域作業療法技術論Ⅰ	スイッチ及びスプリント等のリハビリテーション関連機器について、作成方法及び実践方法を理解する。また、各疾患及び各障害の理解を深め、作業療法の実践に結びつける。	3・前	30	2	○			○		○		
○			地域作業療法技術論Ⅱ	人間の職業的発達、就業の意義、職務分析、職業前評価及び障害者の就業状況について学習する。また、国立職業リハビリテーションセンター、東京障害者職業能力開発校及び東京コロニーの見学を通じて、職業関連活動について深く理解する。	4・前	30	2	○			○		○		
○			臨床実習Ⅰ	3年次2月中旬から3月上旬に15日間135時間以上の臨床実習を行う。対象患者の疾患等の情報収集、対象患者の治療計画立案の知識及び技術並びに対象患者の治療計画立案方法について学習する。また、臨床実習を通して、毎日デイリーノートを作成するとともに、対象患者の治療計画立案の発表も行う。	3・後	135	3			○	○		○		○
○			臨床実習Ⅱ	4年次に80日間720時間以上の臨床実習を、6月下旬から8月中旬で40日間360時間以上及び9月上旬から10月下旬で40日間360時間以上の2施設に分けて行う。対象患者の疾患等の情報収集、対象患者の治療計画立案方法、対象患者に治療計画立案の実施及び治療記録の作成について学習する。また、臨床実習を通して、毎日デイリーノートを作成し、症例経過の報告も作成するとともに、症例経過報告の発表も行う。	4・通	720	16			○	○		○		○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			作業療法演習Ⅱ	自分の個性を知り、場面や相手に合わせたコミュニケーションが取れる方法、解剖学、生理学及び基礎運動学と他授業科目を関連付けて、確実に身に付ける勉強の仕方を理解する。また、障害児施設及び障害者施設での体験実習を通して、作業療法の技法を学習する。	3・通	60	4		○		○				
○			作業療法演習Ⅲ	臨床実習に向けて、ケースノート及びケースレポートの作成方法を学習する。また、障害者施設での体験実習を通して、リハビリ治療における作業療法の技法について理解を深める。	4・通	30	2		○		○				
○			作業療法特論Ⅰ	これまでに学習した授業科目の知識を深める。また、国家試験に向けての勉強の仕方を学ぶ。具体的には、グループ学習を通して、国家試験の出題範囲、内容及び傾向を過去問題を中心に分析していくため、その勉強方法について理解し実践する。	4・前	30	2		○		○				
○			作業療法特論Ⅱ	作業療法特論Ⅰで実践してきたグループ学習を継続していく。模擬試験を通して、把握状況を分析し特に苦手部分の克服について、学習方法を理解する。また、総合的に内容を把握する学習方法についても、理解を深め実践する。	4・後	30	2		○		○				
合計					24科目	1575時間(60単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
(卒業要件)4年以上在学し、学則第16条により課程修了の認定を受けた者。 (履修方法)4年以上在学し、理学療法士及び作業療法士法の規定により、学則別表2の授業科目を履修する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週